



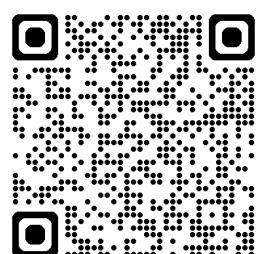
第91号 2025年3月発行

発行者 沖縄県立総合教育センター

所長 上江洲 隆

〒904-2174

沖縄県沖縄市与儀3丁目11番1号



Webページはこちらから

## 令和6年度 研究発表会

### ～ 調査研究統一テーマ 「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」～

「令和6年度 沖縄県立総合教育センター 研究発表会」を令和7年2月7日（金）に開催しました。

「個人・共同研究」は、各班・主事の専門性を生かし、学校の教育課題解決や教育力向上に資する研究として、8編発表しました。「プロジェクト研究」は、本総合教育センターの統一テーマ「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」の下に、「『持続可能な社会の創り手』としての意識を高揚する教育の充実」を研究テーマとして、今年度から新たに取り組んだ研究でした。1年次研究として理論研究を中心に行い、「持続可能な社会の創り手」としての資質・能力の育成を意識した授業デザイン構想案を提案し、その成果および課題を発表しました。

これら研究の報告書や成果物等は、本総合教育センターWebページ内のバナーから閲覧することができ、ダウンロード可能な資料もありますので、是非ご活用ください。

また、同日開催の教育講演会では、独立行政法人教職員支援機構理事長の荒瀬克己氏に「学習指導要領のめざすもの」のテーマで講演をしていただき、多くの学びがありました。

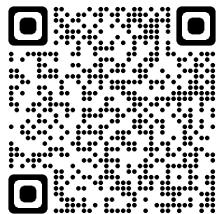
令和7年度も本県及び各学校における教育課題解決の一助となるよう、調査研究及び教育講演会を企画しています。

【沖縄県立総合教育センター】 [www.edu-c.open.ed.jp](http://www.edu-c.open.ed.jp)

【教育情報共有システム】 <http://kyosys2.open.ed.jp/> 調査研究報告・長期研修研究報告

【プロジェクト研究委員会】 [kenkyu.edu-c.open.ed.jp](http://kenkyu.edu-c.open.ed.jp) 各教科等における実践紹介及び指導案等の資料

【沖縄県立総合教育センター】



【情報共有システム】



【プロジェクト研究委員会】



## 令和7年度 移動教育センター講座（宮古・八重山）

宮古地区と八重山地区において、小中学校の教員及び教育関係者を対象に、理論学習や実践事例紹介、ワークショップ等、9講座を行う予定です。多くの御参加をお待ちしています。

\*主催：本総合教育センター

\*期間：令和7年5月～7月

\*場所：各地区的教育事務所

\*詳細：本総合教育センターWebページに掲載

### 【開講予定講座】

- ① 小・中学校 特別活動
- ② 小学校へき地校複式学級担任
- ③ 小・中 特別支援教育
- ④ 小学校 算数
- ⑤ 小学校 国語 ※オンライン講座のみ
- ⑥ 小学校 図工
- ⑦ 小学校 音楽
- ⑧ 國際理解・開発教育（ESD・SDGs）  
※ 3名以上から開講
- ⑨ 小・中 特別の教科 道徳

※ 令和7年度より全講座4月25日（金）締切となります。

## 「県立学校中堅教諭等資質向上研修」の取り組み

本研修は、「教育公務員特例法の一部改正」に基づき、平成30年度より10年経験者研修から中堅教諭等資質向上研修（以下、「中堅研」）に改められました。この改正は、実施時期の弾力化を図るとともに、中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とする資質の向上を図るための研修を実施することを法定研修として義務づけるものでした。

また、本県では「新たな教師の学びの姿の実現」及び「学校における働き方改革」の観点から、本研修のあり方を見直し、教師一人一人の状況に応じて効果的・効率的に受講できるようにする趣旨を踏まえ、今年度（令和6年度）より以下のような改正に基づき中堅研を実施致しました。

### 中堅研、主な改正点

#### (1) 研修日数の縮減

【改正前】校内研修17日程度、校外研修12日程度

【改正後】校内研修11日程度、校外研修9日程度（内、オンデマンド研修2日）

#### (2) 選択研修の弾力化

【改正前】3日程度（原則3日間）

【改正後】2日程度（1～3日間）

※「社会体験」、「専門分野に関する研究・研修」、「NITS等の研修」から選択

#### (3) 受講年度の弾力化

【改正前】採用から10年目の教諭を対象とし、育児休業等の期間がある場合は、その期間を除算した実働年数の年度で受講する。

【改正後】育児休業等の期間の有無にかかわらず、受講年度については採用から10年目を原則とする。ただし、育児休業等の期間がある教員については、その期間を除算した実働年数の年度での受講も可とする。

今年度、受講した中堅研の先生方からは「研修日が去年より縮減され、柔軟かつ多様な選択研修を設けていただき感謝しています。校内研修・校外研修ともに受け身ではなく、目標を持って受講することができました」、「受講年度の弾力化のおかげで、産休・育休明けでも採用同期と同じ研修が受講できて本当に嬉しかった」などの意見が寄せられました。また、Teamsを中心としたICTを活用することで、先生方との連携が取りやすくなり、研修を円滑に進めることができました。今後も先生方の資質向上に資する研修内容の工夫・改善に取り組んでいきたいと考えています。

また、令和7年度より中堅研受講年度に長期研修を受講する場合、それを以て県立学校教諭は「免除」、養護教諭及び栄養教諭、小中学校教諭は「一部免除」に変更され選択肢がさらに広がりました。

## 長期研修 インターバル型（1年）がスタート

中央教育審議会では、「学び続ける教員像」の確立が提言されました。主張的に学びに向かう教員の姿を具現化していくため教員研修の転換を進めていく必要があります。そこで、本総合教育センターにおいても、令和7年度より従来の長期研修形態に加え、「インターバル型（1年）」を導入します。1年のうち、前期（4月～9月）は、本総合教育センターで学ぶ理論研究、後期（10月～翌年3月）は、実際の学校現場で行う実践研究を融合したプログラムです。

前期の研修では、多様な講座を通じ理論を深め、研究主事のサポートを受けて、研究実践の計画を立てていきます。その後、所属校に戻って行う後期の研修では研究実践が中心となります。それぞれの学校課題に向き合い、学んだ内容を実際に試しながら、担当主事によるフィードバックや、他職員との振り返りなど「理論と実践の往還」を行い、教員の資質向上を図る研修としていきます。



研修の様子①



研修の様子②

## 中学校技術自主講座☆農業実践コラボ研修 ～草花栽培指導における基礎知識の習得～

令和6年度は11月29日に中学校技術科教員15名を対象に「内容(B)生物育成の技術」における指導力向上を目的とした研修会を開催しました。今回は産業教育班の徳永主事(農業)による「農業実践コラボ研修」として、技術教諭側の要望もあり、講義形式と温室内での見学及び体験形式で実施しました。生物育成の技術における栽培学習の授業実践に役立つ知識や技術を学ぶ機会となりました。



栽培技術講習



実物を用いた管理作業実習



セルトレイへの土入れ

## 《参加者の主な感想と今後の展望》

- 土作り・肥料・農薬に関する具体的な知識・技術等「具体的にセルトレイの使い方など、専門的に土作りの重要性を実感できた」
- スマート農業に関する最新情報や実践例「貴重な施設の見学、スマート農業に関する実践例に触れ、大変有意義だった」
- 農業高校との連携「高校との繋がりを持ちたい。農業高校との連携を深め、進路指導に活かしたい」
- 時間延長・継続的な実施を要望「栽培の手引きや専門主事による講話をもっと聞きたい！定期的に実施して欲しい」
- より具体的な栽培技術の習得「校内の草を堆肥に活用する方法や使用済みの土の再利用方法を知りたい」
- 水耕栽培や植物工場など応用的な内容の充実「学校の室内や限られた時間等で行える簡易栽培等に適した植物について知りたい」
- 短時間で育成できる植物の情報「時数が限られているため、短時間で育成可能な植物の情報を提供して欲しい」
- 統合的な問題解決に向けた応用的な内容「計測制御と生物育成に関連する植物工場の知識を深めたい」

本研修は、草花栽培に関する知識や技術に加え、中学校3年間を見通した各題材内容との有機的な関連を図る問題解決活動の充実につながる内容でした。今後も実践的で継続的な研修を検討し、沖縄県の技術科教育の更なる発展と、先生方の授業実践に役立つ研修の充実に取り組みます。

## 令和6年度 体験学習教室 ～電気に関する実験や星空観察などの体験活動～

令和6年度の理科研修班の体験教室の取組として「夏休みおもしろ科学教室」「移動おもしろ科学教室in渡嘉敷島」「親子星空教室」を実施しました。「科学教室」では、小学3年生以上の親子を対象に身近なものを利用した実験として、「備長炭電池作り」「クリップモーターの製作」を行い、電気が作られる仕組みやモーターの回る原理を学びました。また、小学校4年生以上を対象とした「親子星空教室」を夏季に2日間実施し、冬季は、12月6日（金）と7日（土）に開催しました。星座観察では、雨や曇り空となり、4つの天体望遠鏡や天体ドームでの大型望遠鏡による月のクレーターや土星の環、木星の観察はできませんでした。しかし、プラ板で星座キーホルダー作製やプラネタリウム室での星空教室で冬の大三角や季節によって太陽の通り道が変わることなどを学習し、参加した子供達や保護者の方からとても満足したという内容の感想をいただきました。

令和7年度も、更に充実した体験学習教室を計画しています。詳しくは各学校や本総合センターのWebページを通じて案内します。皆様のご参加をお待ちしています。



科学教室 in 渡嘉敷島の様子



夏休み科学教室の様子



親子星空教室でのプラ板工作

## 障害者週間啓発事業 Web 展示会 ～共生社会の実現を目指して～

障害者基本法に基づき、国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会・経済・文化その他のあらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として、我が国では12月3日から12月9日までの期間を障害者週間として位置づけられていることをみなさまご存知でしょうか。

その趣旨をふまえ、本総合教育センターにおいても、広く県民に特別支援教育や障害についての理解啓発を図ることを目的に、12月と1月の2ヶ月間、特別支援教育班のWebページを使った作品展示会を行いました。

今年度は、特別支援学校の児童生徒の作品186点、特別支援学校教職員が作成した教材教具65点、学校紹介リーフレット23点、計270点を超える作品をWebページにて掲載することができました。

子どもたちの作品に関することについて閲覧者からのコメントでは、「作品を通して、子どもたちの生活経験を垣間見ることができました。」という声や「自分の子どもの作品だけでなく、他校の子どもたちの作品を見てることができて良かったです。」という声がありました。

他にも教材教具に関することについては「先生方が作成した教材教具はとても参考になりました。いつでも閲覧できるようにしてほしいです。」という声や各学校が作成した学校紹介リーフレットに関するところでは「リーフレットを見比べることで、各学校の特色が分かりました。高等支援学校については初めて聞いたので、この場を通して知る機会になりました。」といった貴重な意見をいただきました。

本総合教育センターでは、今後とも児童生徒の健やかな成長を共に願いながら、障害のある人もない人も共に生きる共生社会の実現を目指して、一人でも多くの県民が理解を深め、考える機会となるよう関連事業等を含め、更なる充実に努めてまいります。

## 特別支援教育講演会 ～叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチの効用～

本県の特別支援教育に関わる教職員の資質向上を図ることを目的とし、令和7年2月21日に和歌山大学名誉教授・国立ハノイ教育大学大学院客員教授の武田鉄郎氏を講師にお招きして、本総合教育センターにて特別支援教育講演会を行いました。

発達障害のある子供たちの中には、つまずきを繰り返し経験することで無力感に陥り、不登校等の不適応状態になり、目標を見失ってしまったことで生きにくさや行き詰まりを感じている子供たちがいます。

私たち教師が、子供たちの自尊感情をどのようにして育て、可能性をどのようにして広げていくのかということは教育現場の課題となっています。

そこで、武田先生には「叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチの効用～発達障害の子供の事例を中心に～」という演題でご講話いただきました。

今回、保育園、幼稚園、こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校といったすべての校種から申し込みがあり、収集・ライブ・オンデマンド合わせて約700名の先生方が受講しました。

本講演会を通して、子供たちの「やりたくない、できない。」を私たち教師がどのように理解し、授業改善していくべきなのか、特別な支援を要する子供たちの支援の在り方について考える貴重な機会となり、明日からの実践への意欲に繋がったと思われます。

今後とも、特別支援教育班として研修プログラムの充実を図り、すべての教職員が積極的に研修に参加できる環境を整えてまいります。



講演会の様子

## 体験実習を通して生活の中の仕事や未来の自分を探してみよう ～模擬会社における体験実習プログラムの実践～

本総合教育センター産業教育班（以下、本班）は、産業教育共同利用施設として農業・工業・商業の産業分野が集結し、産業教育を体験できる実習を行っています。昨年度は専門高校1学年を対象に、産業教育に関する視点で多様な職業や産業に対する理解を深め、身近な社会とのつながりや自己と将来のつながりを見通し職業選択の方向性を支援していく体験実習プログラムを構築しました。今年度は対象校を広げ、南部農林高等学校（環境創造科1年19名）、具志川商業高等学校（情報システム科1年78名）、名護商工高等学校（工業技術科1年31名）の生徒に体験実習を行いました。本班の6つの研究室を会社に見立て、その模擬会社のパンフレットや求人票から、生徒は自分の興味や適性にあった会社を選択し職場体験を行いました。各会社では、業務日誌の作成や社長による評価を行い、就業規則や作業目標を設定し、働くことへのリアル感を持たせました。また、会社間で商品発注をやり取りすることで、仕事同士のつながりを感じさせる工夫を行いました。体験実習プログラムを通して、生徒は産業教育に関する視点で多様な職業を理解し、身近な社会とのつながりや自己と将来とのつながりを見つめることができました。本プログラムは専門高校を対象に引き続き参加校を募集します。



農業[栽培]



食品加工業



製造業



広告業

## 令和6年度 産業教育支援講座 ～産業教育に取り組む先生方のスキルアップ支援～

本班では、産業教育に取り組む先生方の授業力や各教科における専門性の向上を目的とする多種多様な産業教育支援講座を実施しています。今年度は各専門高校の要望より、本班に在籍する3教科（農業科、工業科、商業科）の主事や外部専門家を講師とした11講座を開設し、多くの先生方のスキルアップを支援してきました。今後も変化し続ける産業界の動向や各専門高校より寄せられる要望等を踏まえ、先生方のスキルアップにつながる講座を開設し授業力の向上を支援していきます。皆さんの参加をお待ちしています。

### 令和6年度 産業支援講座一覧

- ①測量技術講座（7月）
- ②情報セキュリティ講座（7月）
- ③木材加工技術講座（8月）
- ④Linux サーバ構築基礎講座（8月）
- ⑤デジタルスクリーン技術講座（12月）
- ⑥ロボット製作支援講座（12月）
- ⑦工業科における授業力向上支援講座（12月）
- ⑧生徒の主体性を引き出すファシリテーション研修（12月）
- ⑨コミュニケーションロボットパドル活用講座（2月）
- ⑩食品加工スキルアップ講座（2月）
- ⑪商業科における探究活動実践講座（2月）



③木材加工技術講座



⑥ロボット製作支援講座



⑧生徒の主体性を引き出すファシリテーション研修

## 特別支援教育と生成AI

生成AIの登場により、教育の分野でも大きな変化が起こっています。文部科学省は、ガイドライン※において「テクノロジーをツールとして使いこなし、一人一人が才能を開花できるようになることは重要であり、生成AIの学校における利活用はそのための助けになり得るものである」と述べています。IT教育班でも、令和6年度の長期研修員の多くが生成AIをキーワードとした研究に取り組んでおり、夏期短期研修やICT教育研修などの各講座でも生成AIについて盛んに取り上げられるようになってきました。

障害の有無に関わらず児童生徒一人一人が現在や将来においてこうした技術革新の恩恵を享受できるよう、特別支援教育における取り扱いも学校現場の課題になっています。すでに全国的には、障害や発達段階など多様な実態に応じた実践事例が報告されてきています。例えば、シンボルなどの視覚情報を手がかりとして理解をしたり、コミュニケーションをとったりすることが得意な児童生徒がいます。彼らにとって、言葉や文字情報が画像として変換・出力される生成AIのテクノロジーは、その学びづらさや生きづらさを軽減する強力なツールとなります。

生成AIの技術は、すでに私たちが気づかないところで着実に社会インフラに組み込まれてきています。ここで重要なのは「良い／悪い」という二元論ではなく、安全性や公平性などの問題を考慮しつつ、生成AIにどのように向き合い、どうすれば効果的に活用できるかです。IT教育班では、これまで高等学校のみを対象としていた生成AIに関する出前研修を、令和7年度から全学校種へと対象を拡大します。ぜひご活用ください。

※文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（Ver.2.0）」2024年12月26日公表

## 子どもたちへのプログラミング的思考を育成していく題材の工夫 ～小・中・高を接続したプログラミング教育の実践～

私たちの生活は、インターネットをはじめとしたスマートフォン、AIなどのデジタル技術に支えられています。今後の学校教育においては、これまで以上に情報機器を活用して、様々な課題を自ら解決していく能力が求められてきます。特に、プログラミング教育においては、問題解決能力、論理的思考力、創造性等を育むことが期待されています。

IT教育班では、プログラミング教育を推進する中で、小・中・高それぞれの教育段階における特徴と課題を考え、調査研究の一環として実態調査、モデル授業の提案を行ってきました。まず、プログラミング教育の全体像を考え、学びの連続性を意識したカリキュラム設定を行いました。

小学校では、プログラミングの基礎的な概念の導入として、ビジュアルプログラミングを使ってロボットカーを動かす体験活動を取り入れました。実際にロボットカーを自在に動作させる流れを組むことで、プログラムの基礎的なアルゴリズムの学習を行いました。中学校では、小学校の内容を更に発展させて、超音波センサーによる制御を取り入れたロボットカーのレースまで展開することができました。高等学校では、中学校技術科の学習で習得した内容を深め、アルゴリズムを通して問題を解決するための手段を考える力を養うために、テキストプログラミングを通して理論を深める学習を行うことができました。

これからは、子どもたちがプログラミングで学ぶことで、次世代の新しいアイデアやサービスを創り出していく機会が増えてくると思います。今後もICT教育を通して、小学校の段階からIT人材の育成につなげられるよう魅力ある研修の充実を目指していきたいと思います。



ロボットカ一体験活動（小学校）



制御ロボットレース（中学校）



プログラミング学習画面（高校）

# 令和6年度 後期・1年研修研究報告会

令和6年度後期・1年研修研究報告会が3月5日(水)～7日(金)の日程で、本総合教育センターで開催されました。長期研修員30名が各自のテーマに基づき、教育課題解決に向けて熱意のある報告を行いました。この報告会から、研究成果が実りある研究だったことが伝わってきました。教育現場でこれから還元していくことを期待し、下記に研修の感想を掲載します。

## 「知識のアップデート」

教育経営研修班 沖縄県立首里東高等学校 教諭 小那覇いづみ



今年度、念願の長期研修を受けることができ多くの学びを得ました。初めて聞く用語や情報に刺激を受け知識のアップデートができました。さらに様々な校種の教職員と出会い、教育への思いを語り合えたことは大きな励みとなりました。また、学校現場の充実さを実感し研修のありがたさを噛みしめています。これから学校現場に戻り研修で得た知識を実践に活かしていくことを楽しみにしています。多くの指導や助言をいただいた主事の方々に感謝しつつ、研修を終えたいと思います。多くの学びを自分自身の力に変え、教育に貢献していきたいです。

## 「学び続けるということ」

IT教育班 沖縄県立嘉手納高等学校 教諭 正代弓子



この一年間の研究・研修を通じて、まずは担当主事をはじめ、ご指導いただいた多くの方々への深い感謝の気持ちを伝えたいです。理論を現場で実践することは想像以上に難しく、実際に試してみて初めてわかることが数多くありました。その一つひとつを乗り越えるたびに達成感を得られ、自身の学びが今後も続いていくことを実感しています。今はこの経験を学校でいかせることへの期待感と、更に深めたい研究テーマが見つかりワクワクしています。生徒にも学ぶ楽しさを伝えていけるように、今後も様々なことに挑戦し、ご指導いただいたことを次のステップへといかしていきたいと思います。

## 「正対」

産業教育班 沖縄県立嘉手納高等学校 教諭 比嘉廣枝シンチア



「今、この瞬間に正対する」、産業教育班では班長からご教授頂いたこの言葉を1年間研修室に掲げ、研究に打ち込んできました。まさに、長期研修はこれまでの教育活動を見つめ直し、自己に正対する貴重な機会となりました。また、研修室での日々は、先生方の人柄や志などに触れることで教育の枠を超えた多くの学びがあり、自分らしい還元の仕方について考える契機となりました。このような素晴らしい出会い・機会を与えて頂いた所属校校長をはじめ検証授業を支えてくださった先生方、さらに班長や主事の皆様からの手厚いご指導・サポートには心より感謝申し上げます。今後も自己に正対しつつ、生徒と共に学び成長できるよう授業研究に励みます。